

京都府立医科大学医学部看護学科アドミッションポリシー（入学者受入方針）

京都府医科大学医学部看護学科の歴史は長く、明治22年(1889年)の全国で初めての京都医学校附属産婆教習所の開設に始まり、歴史と伝統に支えられて、開学以来1万人近くの卒業生を輩出してきた。本学は、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念のもと、生命及び人間の尊厳を基盤に、豊かな人間性と創造性を培い、高度の専門知識や技術など看護専門職として総合的な能力を有し、看護学の発展及び保健医療と福祉の向上に貢献できる人材を育成するため、次のような学生を求める。

1 心豊かに人と接することができる人

看護は対象となる人々との間に築かれる信頼関係を基盤として成立する。そのため、看護者は、人とのかかわりを大切にし、他者を理解し、あらゆる人々の尊厳を重視し、高い倫理観を持つことが求められる。

2 幅広い基礎学力を持ち、自ら考え学ぶ力のある人

看護学を学ぶためには、幅広い基礎学力と主体的な学習態度、そして自分で考える力が求められる。あわせて、看護学を学ぶことの意味を考えつつ、自ら大きく成長しようという意志が必要である。

3 看護への関心があり、看護職として広く活躍したい人

看護を実践するには、専門的な知識・技術及びグローバルな視野に基づく判断力や実践力が求められる。また、地域医療に関心を持ち保健医療福祉領域などで連携しながら看護を実践できる協調性、責任感が必要である。

4 生涯看護活動に関わり、社会に貢献する意志のある人

めまぐるしい社会ニーズの変化に対応するために、生涯にわたり学習を継続しながら看護を実践しようという意志が必要である。

「入学者選抜の方針」

本学では、広く社会と人に関心を持ち、主体的に学び粘り強く探求出来る学生を求める。

そして、将来、日本や世界で活躍できる看護師、保健師、助産師を育成する。

本学科で学ぶためには、高等学校での幅広く高い基礎学力が必要とされる。特に専門基礎科目を理解し学ぶために、高校でその基礎となる理科や数学の知識をしっかりと身につけておくことが必要である。さらに看護学を学び看護ケアを理解するために、高校生活では豊かな感受性を磨くと共に、論理的思考力を十分に養っておくことが必要である。

入学試験では、一般入学試験と推薦入学試験を実施しており、筆記試験によって学力および論理的思考力などを評価し、面接では看護への関心や意欲を評価する。